

なにやってんだよ!

ネットワーク管理者・池田の

第16回 メール重複は誰のせい?

本誌1996年12月号のこのページで紹介した「traceroute」(トレスルート)は、中継してくれているルーターの名前を表示してくれるおもしろいツールだが、電子メールにも、こうした中継してくれているサーバーをトレースする機能がある。

👁️ ヘッダーを見よ!

早合点しないでほしいのは、メール用の「traceroute」というコマンドは存在していないことで、普段何気なくやりとりしているメールの中に、中継したメールサーバーの名前が書かれている。

先月号でちょっと触れたので、読者諸兄はメールのヘッダーを注意して見るようになったらう。だからすでにお気付きだと思うが、「Received:」に中継したメールサーバーの名前が記録されている。

中継するルーターが不調だとパケットが消失することがあるのと同様に、中継してくれているメールサーバーが不調だとメールが消失する。ここで注意してほしいのが、消失するだけではなく、まれには2個に増える場合もある点だ。

👁️ 中継しているサーバーの不調を見破れ!

中継しているルーターでまったく同じパケットが2個送り出された場合は、プロトコルであるTCP/IPが重複を取り除いてくれるが、メールの場合は素直に2通届く。

こうしたメールは内容が同一なので「あれ、さっきも読んだなあ。相手が誤って2通出したのかな?」と思うことが多いだろう(事実そうした場合が多い)。しかし、中継するメールサーバーの不調が原因で、途中で2通になっている場合もありえる。

これを判断するためには最初にヘッダーの「Message-Id:」を見る。異なる「Message-Id:」の場合は相手が2通送ったことを示しているが、「Message-Id:」が完全に同一の場合は、どこかのメールサーバーの不調が原因と考えられる。

メールサーバーは、「送り出し」「中継」「受け取り」(ユーザーが読むまで保存)の3つに分けられるが、どれも同じく、受け取るごとに「Received:」をメールの先頭に追加し、ついでに中継IDも記録してくれる。この中継IDは転送するたびに異なるものが使われる。つまり、2つのメールの「Received:」が完全に同一でない場合、異なる中継IDのメールサーバーとその前のメールサーバーとの間で重複が起きていることを示している。こうした場合、送っている側

のメールサーバーが不調であることがほとんどだ。

👁️ メール重複の原因はほかにもある

実は、これ以外にもメールが転送されている箇所があるのにお気付きだろうか? そう、プロバイダーのメールサーバーから自分のマシンに持ってくる時だ。この転送で重複することも十分にありえる。

自分で使用しているメールソフトウェアは「Received:」を追加したりはしない。つまり、一番最初の行に出てくる、プロバイダーのメールサーバーが受け取ったときに付けた「Received:」までもが完全に同一ならば、自分のマシンに持ってくる時に重複していると考えられる。

この手の重複は、経験上からは「メールをサーバーに残す」という設定にしているユーザーによく起こる。自分のマシンがクラッシュした場合に備え、プロバイダーのメールサーバーにも残しておこうという気持ちはよく分かるが、それがもつて重複メールになるとしたら...

悪いのはどこなのかを正しく見極め、オカド違いのところへ問い合わせないように気をつけよう。自分の無知を知らせるだけで。



メールが重複したときはここを見よう!

This message is test for m

ヘルプを表示するにはF1キーを押してください



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp